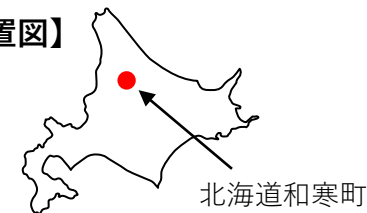


研修農場の整備で地域おこし協力隊の新規就農意欲を支援

- 水稲・畑作・露地野菜を中心とした土地利用型農業、メロン・トマト・花きなど施設を導入した集約型農業と、多様な経営形態が存在し、作付面積が全国トップクラスであるカボチャや雪の下で保存した越冬キャベツは、和寒町の代表的な地域ブランド品として定着
- 地域おこし協力隊員の早期農業技術習得に向け、農業研修カリキュラムを作成するとともに、研修ハウスの整備によって、ミニトマト、コマツナの栽培を実践

【位置図】



取組前

- 農家戸数は平成7年の501戸から25年後の令和2年に半数以下の197戸まで減少
- 過去3年間の新規就農者数は2名であり、高齢化や後継者不足により遊休農地の発生が懸念。計画的な地域農業の担い手の確保が急務
- 令和4年に地域の関係機関及び農業者による「和寒町地域担い手育成センター」の体制を整備し、総合的な支援体制を整えた
- 新規参入者確保のため道内外の就農イベントにエントリーし、研修生の募集活動を展開

取組内容

- 地域おこし協力隊制度を活用した新規参入者の受入体制整備を図った
- R5年度は、事業を活用し、和寒町地域担い手育成センターがハウス等を整備
- R6年度、R7年度は、夏季にミニトマト栽培、冬季にコマツナ栽培の実習に活用

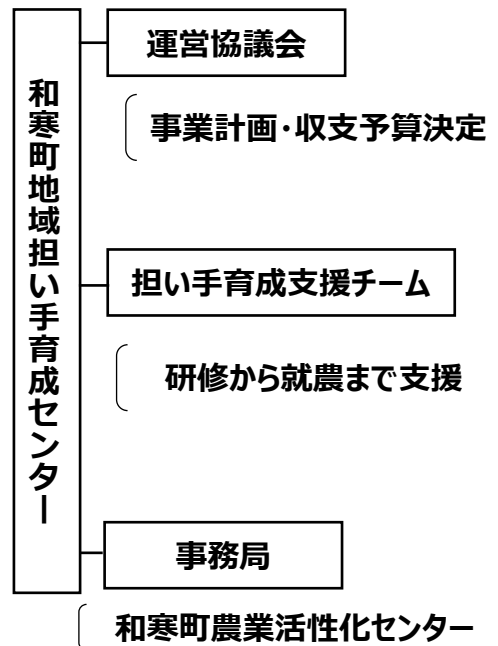


取組後(成果)

- 地域おこし協力隊委嘱数・過去3か年（R3～5）0人 R6:2人、R7:1人
- 研修用ハウス等の整備により、従来の夏季の露地作物と冬季の施設野菜を組み合わせ、年間を通じた技術研修が可能となった
- 支援チームの情報共有により研修協力体制がより強化された



【サポート体制】



新規就農者や研修生の声

- 和寒町の新規参入者に対する受入研修施設は、露地作物やハウス栽培によるミニトマトなど、実践的に作物管理の研修が受けられるので就農に向けた選択肢が増えてとてもやりがいがあります。

サポート体制構築事業 活用年度：令和5年度

【問合せ先】 和寒町地域担い手育成センター運営協議会
（北海道和寒町産業振興課）

TEL：0165-32-2010

E-mail：nousoujyuku@town.wassamu.lg.jp